



大切なのはどの本、どんな経験をもつべきかではなく、それらの本や経験の中に自分自身の何を注ぎ込むかだ。(ヘンリー・ミラー=小説家)

## 秋田県青少年環境浄化審議会が推奨する 優良図書



県では「秋田県読書活動推進基本計画」に基づいて、知事部局と教育庁が連携して読書活動の推進体制を整えるとともに、様々な形で推薦図書を県民のみなさんに紹介しています。総合政策課は「家族で読書 おすすめ50選」「ハピネッツとハッピー読書 選手おすすめの一冊」「著名人・文化人おすすめの一冊」「わたしのおすすめの一冊」、子育て支援課は「マザーズ・タッチ文庫」を、リーフレットやホームページを使って広報しています。また、県民生活課は、秋田県青少年環境浄化審議会において、青少年（6歳から18歳未満）の健全育成に有益な図書を推奨しています。先月で、今年度の優良図書は3冊となりました。

今回は、この3冊を紹介します。

### 『としょかんライオン』

さく：ミシェル・ヌードセン え：ケビン・ホークス  
やく：福本友美子 出版社：岩崎書店  
きまりを重んじる図書館で、そのきまりを守ると約束して楽しみに通っていたライオンが、ある日友人を助けるために約束を破ってしまう。「きまり」の本当の意味や、人とのかかわりの中で大切なものは何かをじっくり考えさせられる本である。

### 『ありがとう、フォルカーせんせい』

作・絵：パトリシア・ポラッコ 訳：香咲弥須子  
出版社：岩崎書店

LD（学習障害）に苦しみ、またそのためにいじめられていた主人公が、フォルカー先生と出会うことによって自分に自信を取り戻し、障害を克服していく。あるがままを受け止めてくれる深い愛、苦手なものに立ち向かう強い心、個々の違いを受け止め認める気持ちなど、大切なことを教えてくれる本である。

### 『羽州ものがたり』

著者：菅野雪虫 出版社：角川書店

平安時代、過剰な税の取立てと飢饉に苦しみ羽州の人々が起こした「元慶の乱」を題材とした歴史小説である。主人公の若い娘を通して人々の絆や力強い生き方が描かれており、舞台となる秋田への郷土愛を育むことができる本である。

## 12月の「打って出る司書」

<訪問した市町村立図書館・公民館図書室の数>

県北	県央	県南
3館室	12館室	4館室

### 藤里町三世代交流館の取組

## 買い物客を図書室へ

藤里町は昨年「子ども読書活動推進計画」を策定し、地域の実情に応じた読書活動の推進を行っています。

昨年6月から、図書室のすぐ側にある「いとくショッピングセンター」に図書コーナーを設置しました。図書室担当の安部さんによると、この商業施設は地域住民によく利用されているので、買い物に訪れる様々な年代の人たちの足が図書室にも向くように、と考えて置き始めたそうです。

「貸出ができる旨も



ショッピングセンターの図書コーナー

掲示したところ、時々、置いてある本を図書室に持って来て借りる方がいます。また、展示の入れ換えをしていると、図書室で所蔵している本について声をかけてもらうことが多くなりました。」と話しています。

また、音楽とお話の世界を融合させることで、図書室に親しみをもってもらおうと、平成21年から図書室コンサートも開催しています。今年は、1月19日（日）、大館ウィンドアンサンブルと藤里小学校吹奏楽部が出演し、それぞれの演奏を披露したほか、ピアノ伴奏付きの絵本の朗読も行いました。50名の来場者は、「気軽にかけられる音楽会として、毎年楽しみにしています。」「ピアノ演奏と朗読の雰囲気が素敵でした。」といった感想を述べていました。



藤里小学校吹奏楽部の演奏

## 公民館図書室から図書館へ

# にかほ市立図書館仁賀保分館

平成25年度、にかほ市に図書館が2館誕生しました。条例を改正し、仁賀保勤労青少年ホームと象潟公民館の図書室を市立図書館の分館としました。

仁賀保分館の職員の山本さんによると、「図書館になったことで、図書資料をコピー



入り口の図書館分館の表示  
することができるようになり、利用している人がいます。」とのことでした。

また、職員の意識が高まり、排架や展示をより工夫するようにな



雇用を支援する就職・転職コーナー



児童書コーナーの隣の子育てコーナー  
母親によく利用されるようになりました。

にかほ市は、合併前の旧町内に図書館を置いたことにより、連携を強化して読書活動の推進に当たっています。利用者は、読みたい本を市内図書館や県立図書館から取り寄せてもらい、市内図書館のどこでも返却できるので、高齢者や車で移動できない方々に好評だそうです。



勉学に励む中学生・高校生は2階を利用



## 『家族におくる一冊』メッセージコンテスト入選作品紹介

### <一般の部>



『世界から猫が消えたなら』  
(マガジンハウス)  
著・川村元気  
大館市 藤原 美紗子さん  
「何かを得るためには、何かを失わなくてはね」。命や物の大切さ、母の愛が伝わる本です。当たり前の幸せに気付きました。いつもありがとう。私の気持ちも、この本を通じてパパと子供たちに伝わるといいな。

『いいから いいから 4』  
(絵本館)  
著・長谷川義史  
秋田市 黒墨 恵さん  
こんなおじいちゃんがいたら楽しいね。人のことを信じて励まし続けることは、お母さんにでもできそうです。うまくいかないことや失敗があっても、前向きに「いいからいいから」って言いたいなあ。おこってばかりだから。

『くまの子ウーフの絵本 おかあさんおめでとう』(ポプラ社)  
著・神沢利子 絵・井上洋介  
秋田市 佐藤 陽太さん  
素直になれない自分に気付かせてくれたのは、お母さんを想うウーフの純粋な気持ち。20代になった今も感謝の言葉は言えてません。頭でわかっているながら気恥ずかしい私には、この本を渡すことが精一杯です。

『おこだでませんように』  
(小学館)  
著・くすのきしげのり 絵・石井聖岳  
横手市 多賀糸 智香子さん  
本当は毎日いっぱいほめてあげたいんだよ。でも実際は小学三年生に成長した君を怒ってばかりでごめんね。この本を読むと君との気持ちが繋がって、お互い優しくなれる気がするんだ。大好きな家族だから。

『きみのいたばしよ』(サンクチュアリ出版)  
写真・スタジオネーブル 著・池田伸 絵・コヨセジュンジ  
美郷町 木村 とも子さん  
母は命をかけて子どもを産むのです……。この世に生を受けた命のすべてが、かけがえのない命です。思い悩んだとき、この本を開いてください。確かに「君のいた場所」が、そこにあります。母である私も、そこにいます。

